

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(あかるく、たのしく、その人らしい生活が送れる)の理念に基づき日々の暮らしの中にも楽しみを作れるように支援し、1日3回の申し送りや、月1回以上の職員研修やカンファレンス会議にて理念を共有している。また、地域密着サービスを意識しながら取り組んでいます。	法人の理念とは別に「明るく・楽しく・その人らしい」を事業所理念として、その人らしく生活できるよう、趣味や生活歴を基本として継続出来るよう支援に努めている。職員交代時の申し送りで伝えたり、毎月のカンファレンスでも職員全体で話し合い、管理者と職員は理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年開催される山中湖村民スポーツ大会や婦人会行事にも参加している。また、地域の踊りのボランティアの方や保育園児も訪れたり交流も有ります。併設される通所の方とも行き来し交流も図っている。	毎年開催されている「ご長寿村民スポーツ大会」や婦人会主催の「お達者会」など地域の行事に参加している。事業所から保育園に依頼して園児に運動会前の事前練習として利用者にお遊戯を見てもらっている。また、事業所主催の納涼会に地域住民を招待するなど地域との交流を積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内・外部の認知症の研修を毎年定期的にて学んでいます。また、年に数回村の広報誌に活動などを紹介したり認知症の相談を受けている旨の内容も掲載させて頂いております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度開催しています。欠席されたご家族等には、面会時(電話)などにて日頃の様子などの報告しています。	2か月に1回、奇数月の月末に開催している会議には、家族、役場職員、包括センター職員、地区民生委員長他数名の民生委員の参加がある。事業所からの報告とともに参加したメンバーからの質問、意見、要望を受け、意見交換を行っている。会議のお知らせは家族に伝えているが、平日開催の為参加は限られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃より訪問や電話連絡にて報告し、連携を取る機会を多くしています。	運営推進会議にも出席しているので、事業所の実情や取り組みは伝わっている。相談事には応じてもらえるよう、出向いたり役場から事業所に来たりと連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者・管理者、よりしない事としています。日頃より全職員にて、気を付けています。また、内・外部研修より学んだりケアに取り組んでいます。	法人全体の研修の中に身体拘束の研修も含まれていて全職員が出席している。また、新任者研修では、利用者の行動を制限するような言葉かけや実演により理解を得られるようにしている。外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声かけをしたり一緒に一緒について行く等身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々のケア・業務にて職員全員にて注意を払い防止に努めています。月1回の安全対策委員会への出席、年2回の高齢者権利擁護・認知症高齢者の理解について研修を出席しています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を持ち、把握し、個々の必要性に応じて活用できるように支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、事前にて説明を十分に行い契約をしています。また、日々の面会時や運営推進会議などでも、不安などを取り除くように話をしております。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、必ず近況の報告をしています。また必要とあれば、連絡を取り、直接的に意見や要望を聞き対応しています。	家族の面会時には利用者の近況を報告し、何でも言ってもらえるよう心がけている。家族からは居室にエアコンを付けてほしい、髪の毛をもう少し短くカットしてもらいたいなど、出された意見、要望は話し合い反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・研修時以外でも傾聴する機会を設けています。個々の体調や不安なども傾聴し、対応しています。	日頃から職員の意見を聞く機会を常にもち、言いやすい関係が出来ている。また、管理者との個人面接が年2回、法人の介護長との面接を年2回実施して、職員からの意見、要望を聞いている。職員からの処遇改善や勤務体制等の希望は取り入れて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、個別面談などを行い、職員の意欲向上に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催される内部研修会に全職員が参加・受講し、個々のスキルアップにつなげています。外部主催の研修会にも出席しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修会に出席しています。他施設の研修・講習会も出席しています。他のグループホームにも視察に行っています。施設見学、意見交換会にも出席しています。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず面談・見学をして頂き、ご本人・ご家族様より現況などの情報や要望などを得るように努め、安心・納得をして頂き、入居とさせて頂いています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の機会を設け、ご家族様の実情や要望を傾聴し、安心・納得して頂けるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、併設される老健施設の専門職に相談・助言をしていながら、対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個々の心情を理解し、寄り添って行けるようなかかわりを心がけています。また、得意分野などを担当して行って頂くも苦手な方などと一緒にして頂いたり、関係性を高められるようにしています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、常に近況報告・相談を心がけています。また 随時、連絡・報告も行っています。希望にて、職員同行での 受診をしたり、緊急搬送時においても同行し、付き添い体制 づくりを行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設された老健の通所ご利用の方との交流を図って頂い たりしています。また、家族に連絡したい方には、電話での 対応もしています。村で開催されるイベントには、出来るだ け参加するようにしています。	事業所玄関に公衆電話が設置してあり、家族に電話で必 要な物の買い物を頼むなど、家族とのつながりを大切にし ている。また、併設している老健のデイケア利用者や地域 のイベントに参加した時など馴染みの知人・友人等継続的 な交流ができるよう、人と場所の関係が途切れないよう支 援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	日中は、全入居者様が参加できる事を提供したりしてい ます。また日勤者が連携を図り、全員が何をしているかを把 握するように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談や支援に応じています。(他施設の紹介含 む)			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	困難な方には、全職員にて取り組みながら支援できるよ うに対応しています。また必要な品・物品等は、ご家族に相 談・検討して頂き購入して頂いています。食事形態も個々 の要望に合わせたものを提供しています。	毎日決まった時間帯に散歩を希望する利用者の思いを大 切にし、午前中職員と一緒に施設周辺を歩くことを日課とし ている。意思の疎通が困難な場合には、申し送りや会議で 検討し対応している。利用者からご飯はおかゆにしてほし い、副菜を刻みにしてほしい等食事形態についての要望が あり対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	事前に、ご本人・ご家族様より聞き取り調査をしています。 馴染みのあるものなどは、使用して頂くようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の、申し送りやカンファレンス等にて入居者様の現状 を報告し、職員が共有するように努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	各職員が担当の入居者様のモニタリングをし、ご本人・ご 家族様の意見や要望をカンファレンスなどにて検討し、取り 入れるようにしています。また、入居者様の状態変化時 には見直しもしています。	日頃の関わりの中で利用者担当職員からの思いや、意見 を聞いて介護計画に反映させている。毎月、アセスメントを 含め全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを 行っている。3か月から6か月で見直し、家族の要望や身 体状態に変化が生じた場合は、担当医の意見も入れて現 状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報などを担当職員が提供しながら見直しをしてい ます。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望があれば医療機関の受診の支援を行っています。また併設施設の専門職に訪問して頂き、出来る範囲内にて支援しています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用・協力しながら支援しています。地元消防団にも施設視察に来て頂き、災害時の対応に仕方などの話し合いもしました。また災害時に近隣の水会社と契約をさせて頂きました。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が内科専門で有る為、定期的に受診しています。専門外医院の受診も職員が付き添い支援しています。	入居前からのかかりつけ医を家族同行で受診している。利用者と家族が希望した場合には法人系列の病院を職員同行で定期受診している。受診結果や薬等、変更がある場合には家族に連絡して情報を共有している。また、皮膚科、歯科等専門医の受診には職員が同行して医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々での状態の気づきや情報等を随時伝え、相談し日常での健康管理の支援をしています。(併設の老健施設の看護師に相談し、受診等の有無などを)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、協力病院と連携し、安心出来るように支援しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居前に、ご家族様(キーパーソン)と想定した話をしています。(他施設の申し込み等の書類代申請など)	事業所では、重度化した場合や終末期の対応をしていない為、入居前の相談時に状態に合った他施設への紹介や代行申請が出来る事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急マニュアルを元に行動するように努めています。併設老健での急変時・事故発生時の対応の研修を受講して対応出来るように学んでいます。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災業者主催の訓練及び勉強会をしています。避難訓練は、実際に全入居様を交えた訓練をしています。本年度11/25村との合同訓練実施予定)	法人全体で年2回、防災業者の指導で初期消火、避難、救難訓練を実施している。事業所独自でも昼夜を通して避難誘導ができるようにカンファレンスの後などに定期的に行い、職員は通報システムや利用者を避難誘導出来るように備えている。地元消防団にも協力の依頼をしてあり、避難経路の確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が対応しています。また、研修会などで再度確認し合いながら行っています。特にトイレや入浴介助時には、常に気を配る様になっています。毎年年度初めには、接遇研修(マナー)なども実施しています。	接遇研修が年度初めにあり、職員は研修したことを基に利用者に安心感を与え信頼を得よう対応している。トイレ誘導や聞こえの悪い利用者への声掛けについて、さりげない言葉かけに配慮するよう努めている。トイレを使用している時も戸の隙間に立って利用者のプライバシーを損ねないよう気をつけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にあった言葉かけや接し方を全職員にて努め入居者様の素直な表現での要望や自己決定が出来るように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや主張を大切に、希望に沿った生活が出来るように支援しています。また余暇活動が継続できるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重し楽しめるように努め、時には選択して頂きながらの支援を心がけています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材は、老健施設より頂き、簡単な調理のお手伝いや食事準備・片付けなどを一緒に行っています。食事の企画として、好きな献立を調査し、食材を買いに行ったり、調理する行事をしています。	併設している老健から調理した主食、副菜等が届き、盛り付けを利用者が手伝っている。普通食で食べるご飯は炊いて、副菜の食事形態は利用者毎に事業所の職員が行っている。食後の片付け、食器洗いは利用者の役割として積極的に関わっている。おやつレクリエーションやイベント食は利用者の楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食やし好調査を元に提供しています。毎日、食事量・水分量を確認し、栄養状態等の支援を心がけています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧めています。時には、一連の動作の確認をし、指導する支援をしています。義歯は、洗浄・消毒を実施しています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、対応しています。時に声かけ・誘導にて気持ちよく排泄できるように支援しています。また、布パンツ使用の方には、さりげなく失禁の有無を確認し現状維持を保って頂ける様にしています。	使い慣れたトイレに、行きたい時に行く利用者もいるが、時間が空いた時には声かけをしてトイレ誘導をしている。日中と夜は使うパットの大きさを替えて対応している。日中はハビリアパンツを使用している利用者も本人の希望で夜は安心して眠ることができる様おむつを使うことがある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や量・性状等を記録し状態の把握に努めています。水分量の確認・毎日の身体を運動にも心がけて実施しています。希望者には、施設外配布にも同行し便秘改善に努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回の機会を作り、午前・午後と希望に応じ施行している。必ず1対1の対応と、湯の温度確認を2名にて行う。希望な方には、個人持ちのシャンプーを利用して頂いている。また入浴剤は、施設購入にて使用し、気分転換を図っています。尚、入浴できる時間の設定はしていません。	毎日、午前、午後と入浴できる準備はしてある。週2回の入浴を基本としているが一方的に決めず、利用者の生活習慣や希望、失禁状況に合わせて入浴できるよう配慮している。皮膚の弱い利用者を入浴剤等も用意して個々にそった支援に努めている。また、お湯の温度は職員2名で確認して安全面に気をつけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームあんず**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居の際には、自身の使用された寝具を使用されますように勧めております。日中の活動を増やし、気持ちよく安眠できるように心がけています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握出来るように薬情を用意し、理解できるようにしています。内服介助のマニュアルを用いて、職員間にてチェックし、誤薬がないように支援しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活していく中での家事作業を積極的に出来る環境を支援し、もしくは、個々にて出来る活動の参加を促し、張り合いが持てるように支援しています。(食事の盛り付け、片付け、洗濯物干し・たたみ)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れて気温も高い日には、本人のご希望にて戸外に出かけられるようにしています。また、こちらからの要望にて、花壇・プランターの水やりを当番制にし、出られています。なるべく企画作成時には、外出物を企画する様に努めています。	利用者の希望もあり、朝の散歩を日課として職員と一緒に歩いている。また、敷地内を散歩するなど短時間でも戸外に出る機会を作っている。ドライブや外食、季節やその時々状況に応じて利用者全員が参加して外出を楽しむように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルが生じる為、職員にて管理しています。一部の方、家族の理解のもと金銭管理をしている方もいます。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・室温計を使用し、適温に保つように努めています。フロアへの壁には、行事写真や季節の飾り付けをしたりしています。冬季には、コタツを出しつろげるように努めています。	広々としたフロアを囲んで居室があり、壁には行事の写真や切り絵等が飾られていて、一目で見渡すことができる。心地良さを感じる共用空間の場所は天井に明り取りがあり、間接的に光が差し込んでいる。床暖房の設備で心地よい暖かさを感じることができる。フロア全体がフローリングの為、家庭の雰囲気が出せるようにと畳のスペースも設けられている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居間の畳フロアに腰を掛けて頂いたり、冬季にはコタツを用意し、選択出来るように工夫しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具も有りますが、出来る限りご本人が使用された物を使用して頂くよう支援しています。自室には、作品や、お花を飾って頂くなどし、心地よく過ごせるように努めています。	居室にも床暖の設備があり、ベット、洋服ダンス、机、洗面台が備えてある。整理ダンスやテレビ等持ち込まれ、その人らしく暮らせるような部屋作りがされている。机に座って趣味の塗り絵をしたりと、自宅で生活しているように過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには、なるべく物を置かず、動線を確保するように努めています。トイレも3か所あり状況に応じ対応出来るように支援しています。			